



Title	YOSEMITE VILLAGE : ヨセミテ国立公園見聞記
Author(s)	北村, 重喜
Citation	大阪公衆衛生. 1973, 29, p. 26-27
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84292
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

YOSEMITE VILLAGE

— ヨセミテ国立公園見聞記 —

北 村 重 喜



(杉木立も美しいヨセミテの山)

欧米公衆衛生事情視察団の一員として、さる8月末より約1カ月余、欧米9カ国をかけ足で廻って来たが、他の人の報告もあるのでアメリカ西部の景勝の地、国立公園ヨセミテ溪谷の見聞記にて報告にさせていただきます。

アメリカ太平洋岸カリフォルニア州の中央部でネバダ州よりの山岳地帯にあり、サンフランシスコより米ユナイテッド航空(国内航空)にて約45分、大平原の中のローカル空港らしい広々としたフレズノ空港に降りた。何しろだだ広い土地故、空港の騒音も人家のないこんな所ではあまり問題にならないことだろうと思われる(勿論、飛行機の発着回数も少い)。サンフランシスコをたつ時は涼しかったが、ここはまた気温が高いのでとまどう。

ここからバスに乗って約3時間、国道40号線の立派な道路を快速を飛ばしてひた走る。途中の景色は目的地に近づくにつれて峨々たる岩山と山林が次から次へと偉容をほこり、壮大な眺めに、映画に見る西部劇のインディアンが現れて来そうな素晴らしさである。この「ヨセミテ」への道は4本あり、その内120号線というのが溪谷の中央を縦貫している。

ヨセミテ溪谷は面積1,200平方哩、ネバダ山脈の中にあり、Dome, Towering Cliffs, Waterfalls等が有名である。われわれはそのほぼ中央にあるヨセミテロッジに入った。宿舎は木造の2階建長屋式のもの、独立式のもの管理棟を中心にして林の中に散在し、それぞれ給湯、暖房設備をつけ、集中構造で各戸に配管(埋没)してある。この宿舎を利用せずとも別に定められたキャンプ場に各自がキャンピングカーを乗り入れて施設を利用している人達も多い。

アメリカの国立公園はアメリカ内務省国立公園部が一本で所管しており、各公園内に管理事務所が置かれて入園料を徴収し、かつ公園内の管理にあたっている。入園料は1人1日0.5ドルから自動車1台1年間10ドル迄いろいろに区分されている(勿論65歳以上の老人は無料である)。



(岩壁と空と雪のおりなす自然美)

管理人及び公衆衛生係の説明によると、この公園は一つの国と考えてもよいようである。ありとあらゆるものが整っている。ただしすべて民間委託である。電気、水道（上下）、医療、廃棄物処理、観光（自動車）、宿舎、レストラン、キャンプ場、トレーラーハウス用キャンプ場、駐車場、スキー場、展望台に至るまで完備されている。病院には4名の医師、1名の歯科医師がおり、ベッドも16床あるとかで、レストランも10カ所あり、これらの施設が手狭になって来たのでここ2、3年で1,000万ドルの費用をかけて増改築の計画を持っていると話していた。ちなみに年間の収入は約300万ドル、支出は約550万ドルとのことで之は補助を受けている。

電気施設は勿論ほとんど地下埋設で、下水道は下流5マイルの所に2つのプラントがあり、150万ガロンを処理する。これはテレビ装置で操作を行う。放流水のBODは8ppmとの説明であった。廃棄物は12マイル下流で焼却し、灰は別の地点に埋めている。水道水は溪流の水を利用し、塩素滅菌（2ppm）のみを行い特に沈澱池をもっていない。

この公園は他の公園と異り1年中オープンできるとのことで管理人の自慢の一つである。年間200~300万の観光客があり、この内60%は6、7、8月に集中する。これらを管理するため130人が従事し、その他臨時を加えて500人を使用しているということである。

アメリカ大陸の広大な土地柄故、スケールの大きいことは感心する。自然の景観を最大限に生かし、自動車道路は全て舗装されているが、必要最少限にとどめ、自然をそのままに大切にしていることは徹底している。その一例として、バスの走っている前にカモシカの子供のような動物がひょっこり立っていたり、リスが出没したりして、ほんとに山の中にいるという感じがする。建物はすべて目立たぬように建てられ、展望台から眺める景色は目に入るもの、ただ大自然の姿のみと云う見事さである。

また、都市の公園ならまだしも、この都会を遠く離

れた山の中の自然公園の草むらの中にも同様な撒水栓が縦横に配管されているのか無数に設置されているのには感心させられる。日本のように1カ所にいろいろの設備をするのではなく、この谷間はスキー場、この地域はキャンプ場、ここは森林観賞地、また乗馬コースがきめられ、観光コースが指示されている等、全く適材適所に区分されている。

園内は禁止の立札、貼紙が見当たらないし、ゴミが落ちていないことはその国の国民性、風俗、習慣によるとはいえ、全く清潔である。人の集るところはスイガラ入れ、紙屑入れが目立たないように置いてあり、消火栓が各山中にも配置されているのには感心させられる。このための配管はおそらく数千キロに及ぶのではないだろうか。

食堂はカフェテリア形式の明るい清潔な雰囲気である。アメリカでも農業、果物の豊富な地域にあるためか、野菜、果物はふんだんに食べられたが、新鮮で美味しかった。これらの従業員の健康管理と食品の抜き打ち検査を担当官が行っており、食肉類は検定品を搬入しているようである。

われわれは帰路公園内にあるMariposa grove（小さな森）に立寄ったが、ここは杉の原生林地帯で、樹令2,000年にわたる杉の大木が約200フィートにも伸びていて、いと天を衝いて群生しているさまは驚くばかりである。これを見るため特別の無蓋トレーラーが森林内を一巡しており、スケールの大きさに感嘆した。

このように自然に合うように計画し、十分自然を楽しんでいるのがそのありのままの姿であり、経費も十分に有効に使っていると思われる。われわれもその環境に合ったもろもろの施設を、将来を考え、費用を十分にかけて完備すべきであると感じた。

（大阪府豊中保健所長）



（公園内のキャンピングカー）



（清潔で気持ちよいカフェテリア）